

ビヨンドトゥモロー 活動ハイライト



～逆境は、優れたリーダーを創る～

BEY●ND
Tomorrow

ビヨンドトゥモローは、親との死別・離別を経験していたり、児童養護施設に暮らしていたり、社会経済的に困難な状況にありながらも、人のため、社会のために働く志を持つ若者を応援しています。



自殺、児童虐待、貧困—

世界屈指の経済を実現し、豊かになったはずの現代日本において、深刻な社会課題が多く存在します。そして、そういった課題の陰には、多くの子供たちの存在があります。

逆境を経験した若者を応援するのは、
彼ら・彼女らがかわいそうだからではありません。

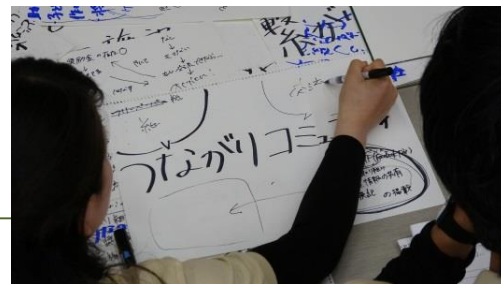
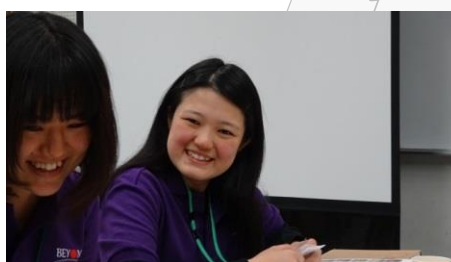
親を亡くしたり、児童養護施設に暮らしていたり、生活のためにアルバイトに明け暮れていたたり、たくさんの苦勞を抱えながら、それでもなお、自分の人生を自分の手で切り開くべく、努力をあきらめない子供たちがいます。ビヨンドトゥモローは、様々な事情で社会経済的に困難な立場に置かれながらも、将来、他者のために力を添える存在になることを志す若者を、奨学金支給と人材育成プログラムを通して応援しています。

困難を経験したからこそ、
他者の心の痛みに想いを馳せ、
行動できる人材になれるはず。

ビヨンドトゥモローが、逆境を経験した若者を応援するのは、彼ら・彼女らがかわいそうだからではありません。一人一人が困難に向き合ったストーリーは、その人の人生の糧であり、そんな体験を持つ彼らであればこそ、他者の心の痛みに想いを馳せ、人のために行動できる人材となることができるという考えの下、彼らの人生の旅路に寄り添い、そして彼らのいるところから見える風景が少し違ったものになるように、視野を広げるきっかけ作りをしています。

ビヨンドトゥモローの活動に参加する一人一人は、キラキラと輝いていて、自身の困難な体験を糧に、他者のために生きる存在になるべく、日々研鑽に励む姿は、ビヨンドトゥモローの誇りです。

ビヨンドトゥモローの活動



奨学金プログラム

ビヨンドトゥモローでは、親との死別・離別を経験していたり、児童養護施設に暮らしていたり、社会的・経済的に困難な状況にありながらも、将来、他者のために仕事をするを志し、進学を希望する若者を応援することは、社会の責務であると考え、高校生・大学生を対象に奨学金支給を行っています。2017年度は、選考委員会による選考によって選ばれた約30名の学生たちが、ビヨンドトゥモローという場で切磋琢磨しながら、それぞれの道で学びを追求しています。

● 大学・短大・専門学校生対象

～ジャパン未来スカラーシップ・プログラム2017(約20名)

親との死別・離別など、様々な困難を経験しながらも、社会に力を添える存在になることを願う若者約20名を日本全国から選抜し、年間72万円の奨学金(返済不要)を支給。

選考委員会(五十音順・敬称略)*

木山啓子	特定非営利活動法人ジェン(JEN) 共同代表理事
	一般財団法人教育支援グローバル基金 評議員
清山知憲	宮崎県議会議員
小林益久	三重県松阪市副市長
坪内南	一般財団法人教育支援グローバル基金 理事・事務局長
林礼子	バンクオブアメリカ・メリルリンチ マネージング・ディレクター
和田真一	財務省主計局

● 高校生対象

～エンデバー2017(約10名)

児童養護施設に暮らす高校生を対象に、社会における自分の役割を探し、進学を希望する約10名を選抜し、進学準備に際して必要な費用(センター試験受験料、入学検定料など)を10万円を上限に奨学金(返済不要)として支給。

*所属・肩書きは2016年12月時点。



人材育成プログラム

ビヨンドトゥモローでは、困難な状況にあっても、自分の人生を自分の手で切り開き、他者のために行動できる人材の輩出をめざし、学生たちの視野を広げ、人間的成長を促す人材育成プログラムを開催してきました。その視点は、地域コミュニティから地球規模課題にまで及ぶもので、多角的な視点と強い共感力をもつ人材の育成をめざしています。

● 米国サマープログラム

2016年8月（米国：ボストン・ワシントンDC・ニューヨーク）

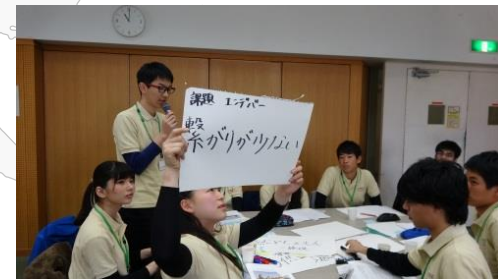
広く世界に活躍するリーダーとなる志を持ちながらも、グローバルな経験を積む機会が限られている環境にある学生14名が、ボストン・ワシントンDC・ニューヨークを訪問しました。現地では、社会をより良い場にすべく活動する団体・個人を訪問し、米国における社会変革のあり方について学ぶとともに、現地の方々との交流を通じて、日本の今を米国の方々に伝えるアンバサダーとしての役割も果たしました。



● アジアサマープログラム

2016年8月（韓国：ソウル・大田・釜山）

日本人学生11名と韓国人学生8名が、約1週間のプログラムを通して、社会格差や若者の雇用、移民など両国に共通する課題について、日韓の若者がどう課題解決に向けて協働・貢献できるかを考えて討議する機会を設けました。また、日韓の学生が互いの人生や将来について対話することで、国籍の違う人々との信頼構築のプロセスを経験し、建設的な二国間関係醸成の礎となる絆を育みました。



● ジャパン未来リーダーズサミット

2016年10月（東京）

親との死別・離別や、児童養護施設で生活しているなど、様々な事情により機会を得ることが難しい状況にありながらも、広く社会のために役立つ人材となる志をもつ全国の若者約70名が東京に集結し、「若者が輝く社会」の実現に向けた提言をグループ毎にまとめ、最終日には政治・行政・ビジネス・メディア・NGOなど各方面のリーダーたちの前で発表しました。



● 3月オリエンテーション・プログラム

2017年3月（東京）

奨学金プログラムに選ばれた学生たちが一堂に会し、これからの1年間をどのように過ごすかを考えるべく、3泊4日の「3月オリエンテーションプログラム2017」に臨みました。2017年度の奨学生が一堂に会し、これまでの自分の歩みをふりかえり、今後、他者のため、社会のために何ができるかを考え、自分の未来へのビジョンを描く機会を持ちました。



グローバルな視座、世界への挑戦

米国サマープログラム2016 ～村瀬二郎記念奨学事業～

2016年8月(米国:ボストン・ワシントンD.C.・ニューヨーク)



マサチューセッツ工科大学の学生たちと、キャンパスツアーの後、ディスカッション

広く世界に活躍するリーダーとなる志を持ちながらも、グローバルな経験を積む機会が限られている環境にある学生14名が、ボストン・ワシントンDC・ニューヨークを訪問しました。現地では、社会をより良い場にすべく活動する団体・個人を訪問し、米国における社会変革のあり方について学ぶとともに、現地の方々との交流を通じて、日本の今を米国の方々に伝えるアンバサダーとしての役割も果たしました。



NYC Museum Schoolの学生たちと交流



マサチューセッツ州立大学ボストン校の授業でプレゼンテーション

アジアサマープログラム2016 ～民間外交のための日韓の若者パートナーシップ～

2016年8月(韓国:ソウル・大田・釜山)



寝食を共にした、日韓の学生たち

アジア太平洋における若者による民間外交のプラットフォームを構築すべく、日韓学生による対話事業を開催しました。多様な背景を持つ日本人学生11名と韓国人学生8名を選抜して、社会格差や若者の雇用、移民など両国に共通する課題について、日韓の若者がどう課題解決に向けて協働・貢献できるかを考えて討議する機会を設けました。また、プログラムを通して日韓の学生が互いの人生や将来について対話をするすることで、国籍の違う人々との信頼構築のプロセスを経験し、建設的な二国間関係醸成の礎となる絆を育みました。



北朝鮮から亡命した学生たちとディスカッション



在韓米国大使館でのワークショップ

社会への発信 ～当事者の視点～

ジャパン未来リーダーズサミット2016 ～若者が輝くことのできる社会～

2016年10月(東京)



自身の体験に基づく社会課題について、提言をまとめ、閉会式でプレゼンテーション

親との死別・離別や、児童養護施設で生活しているなど、様々な事情により機会を得ることが難しい状況にありながらも、広く社会のために役立つ人材となる志をもつ全国の若者を対象に、本サミットでは、多様な領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、「若者が輝く社会」の実現に向けた提言をグループ毎にまとめ、最終日には政治・行政・ビジネス・メディア・NGOなど各方面のリーダーたちの前で発表する機会を提供しました。



自分たちの体験を共有し、若者が輝く社会を実現についてディスカッション

優勝チームが、小泉進次郎衆議院議員を訪問し、提言を発表

3月オリエンテーション2017 ～児童養護施設の高校生が考える「つながりコミュニティ」～

2017年3月(東京)



加藤勝信衆議院議員／一億総活躍担当大臣との対話

ビヨンドトゥモローの奨学金事業「エンデバー2017」に参加する児童養護施設に暮らす高校生たちが集まり、これまでの自分の歩みをふりかえり、今後、他者のため、社会のために何ができるかを考え、自分の未来へのビジョンを描く機会を持ちました。そして、児童養護施設に暮らす子どもたちの環境についての課題を整理し、より社会と密なつながりを求めて「つながりコミュニティ」創設にむけた提言をまとめ、加藤勝信衆議院議員／一億総活躍担当大臣の前で発表しました。



施設に暮らす体験を共有・ディスカッション

児童養護施設に暮らす子どもたちの課題を整理

参加学生たちの声

母を失った今、本当に大切にすべき
母の姿は、優しくてあたたかくて、
どんな私も受け入れてくれる母の姿。

青木里紗 青山学院女子短期大学現代教養学部
(神奈川県立横浜国際高等学校卒業)

高校3年生の夏、母が自殺。母の死は何よりも辛い経験だったが、今後、その経験を通し、自分自身だけでなく誰かのことを少しでも救いたいと考え、ビヨンドトゥモローに応募することを決意した。プログラムを通じて様々な人たちと出会う中で、自分の経験を隠すことなく共有し、母と過ごした時間や母の死が教えてくれたたくさんのことを、人生の中で活かしていきたい。外国の文化や外交問題に関心があり、タイやマレーシアを訪問し、経済格差や環境問題について学んだ経験から、発展途上国の問題に興味を持つ。将来は、地球規模課題はもちろんのこと、個人個人の悩みの解決につながる手助けをできる人になりたい。



今の環境に絶望している時間があ
ったら、この機会を自分に与えら
れた使命だと信じ力に変えたい。

苦勞の大きさを人と比較しても意味
がない。将来は、医師となり、壊滅
した故郷の医療に貢献したい。



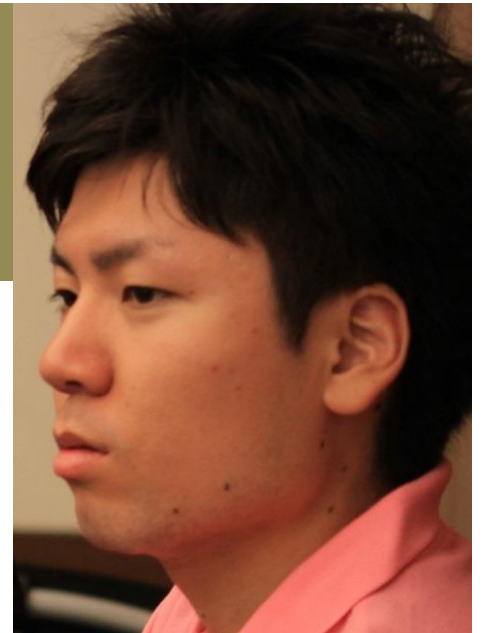
佐藤慎 岩手医科大学医学部
(岩手県立大船渡高等学校卒業)

東日本大震災により、故郷陸前高田市で被災。たった1日で、家、故郷の街並み、昨日までいつも通りに話していた親友を失うという経験をした。絶対に失いたくないものを失ったが、震災は、自分に多くの出会いを与えてくれたと感じている。将来は、震災で崩壊した故郷の医療を支えるべく、地域医療に携わる医師になることを決意。大学入学以来、3年間、ビヨンドトゥモロー奨学金プログラムに在籍した後、2016年から、奨学金プログラム選考スタッフとして運営に参加したのを皮切りに、現在は、ビヨンドトゥモロー学生カウンスルの初代メンバーとして、事業運営に関わっている。

高校まで片田舎から出たこともなく、海外にも行ったこともなかった自分が今、世界を舞台に起業するという目標を持ち、夢を追い続けていることができるのは、ビヨンドトゥモローと出会うことができたから。

菅野翼 日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ勤務
(宇都宮大学国際学部国際社会学科、福島県立福島工業高等学校卒業)

東日本大震災のあった2011年に高校生としてビヨンドトゥモローに参加。ビヨンドトゥモローは、田舎で育った自分にとって、世界観を広げ、切磋琢磨できる仲間と出会う場だったと感じている。大学進学後は、1年間アメリカに留学した他、ベンチャー企業でインターンシップを経験したり、ARC Generationsという団体を自ら設立したりと多方面で活動に取り組んだ。大学卒業後、インドのTATAグループのTATA Consultancy Servicesの日本法人通称TCS JAPANに新卒として入社。インドと日本市場を中心としたグローバルカンパニーの一員として日々奮闘している。



私は、1年前、人生で最も重要な決断をしました。それは、ビヨンドトゥモローに応募するということでした。

それから1年が経ち、振り返ると人生の中で最も濃い1年となり、本当にあの時、頑張って応募してよかったと思います。

荒川未菜子 長野県上田高等学校

7歳の時から児童養護施設に暮らす。高校1年生の時からビヨンドトゥモローに参加し、人生の中で最も濃い1年になった。一緒にいられる時間は短くても、普段は話せないような話をできる人たちとの出会いがあり、自分は変わることができたと思う。周りの大人に支えられ、充実した生活を送り、大きく成長させてもらった経験から、将来は、日本だけでなく海外においても、貧困の中にあたり社会的養護を必要とする人々のエンパワメントに携わりたい。その夢のためにも、大学で国際関係学や社会開発を学ぶことを希望している。



国連防災世界会議でプレゼンテーション



フィリピンの小学校訪問



ハーバード大学訪問

参加学生のストーリー

福澤孝晴 東京都立青山高等学校

家庭の経済的な事情で、中学生の時に東南アジアに転居し、学校に通うことのできない環境で2年間を過ごした。進学したいという一心で、単身、日本に帰国し、児童養護施設の保護の下に夜間中学に通い、高校に進学。将来は、理論天文学の研究者となり、未知なる発見を探索すると共に、途上国の教育支援にも携われるようになりたいと考えている。高校1年生の時に初めて参加したビヨンドトゥモローは、自分にとって本当に大きい存在となり、自分の中の核であり続けている。そして今後は、これからビヨンドトゥモローに参加する人たちを支え、この場所の素晴らしさを伝えていきたい。



本人後列左

“3日食べられないことが こんなに苦しいとは、 知りませんでした”

私の父は、変わった人です。体重100キロ、身長187センチの巨体。一人息子の私を本当に大切に想ってくれ、よく旅行に連れて行ってもらい、旅先できれいな星空を見るのが楽しみでした。母が行方不明になっていた我が家では、父は、お父さんとお母さんの両方のような存在で、私は父をとて信頼していました。私の父は事業をやっていて、ずっと不自由のない暮らしをしていましたが、リーマンショックの頃から、父の事業が傾き始めました。中学3年になった時、父から、「孝晴、もう海外に逃げなければならぬ」と言われたとき、私は何かの冗談だろうとしかとらえていませんでした。

また何かの旅行だろうと思って、父と70代の祖母と、タイ行きの飛行機に乗りました。中学3年の5月でした。その後、2年近く、日本の土を踏むことはありませんでした。

タイに着いて、最初は2週間くらいだと思っていたのですが、だんだん、これは帰れないらしいということに気づきはじめました。観光ビザで滞在していたので、現地の学校に通うこともできず、また、そんなに長く滞在すると思っていたため勉強道具を持参していなかったのですが、持っていた少しの勉強道具で繰り返し繰り返し勉強を続けました。同じ問題集を8回解いたこともありました。

タイでも経済的に苦しく、市場に売っている一袋10円の野菜を食べ続け、ついにはそれさえも買えずに、砂糖水で空腹をしのぎました。3日食べられないことが、こんなに苦しいことだと、知りませんでした。

“何よりも辛かった のは、周りから 忘れられていく、 置いていかれると いう感覚”

でも、食べることができずにお腹がすいたことよりも、やることがなくて退屈だったことよりも、何よりもつらかったのは、まわりから忘れられていく、置いていかれるという感覚です。旅行だと思って日本を離れたまま、一度も日本に帰ることができず、とにかく一度でもいいから日本の地を踏みたいと思っていました。友達とたまに電話したりもしていましたが、友達は高校生になり、新しい生活を始める中で、1年前に急にいなくなった私と接することに戸惑っている感じで、自分が忘れられていく感覚に恐怖を覚えました。日本に帰りたいけれど、父に言っても父が苦しむだけだとわかっていたので、2年間、ずっと孤独で、さびしい時間を過ごしました。

タイに来てからもうすぐ2年が経とうとしていた時、日本に帰ることを決めました。東南アジアは貧しい国が多いですが、皆、力いっぱい生きています。私より小さい子供たちが、観光客を観ては英語を学び、商売をしては算数を覚え、与えられた環境を最大限に活かして生きている姿に、日々を無為に過ごしている自分が恥ずかしくなり、悩んだ末、自力で日本に帰ろうと思いました。

“生まれて初めての家出。 行き先は5000キロ先です”

生まれて初めての家出。行き先は5000キロ先です。準備に3か月かかりました。父には内緒で、バンコクの旅行代理店で航空券を予約し、日本に帰ったらどうするのかを調べ、こっそりと荷物をまとめました。

そして、今でも忘れることのない、2014年3月7日。深夜、父と祖母が寝静まってから、父から盗んだお金と荷物を持って、家を出ました。一目散に走りました。すぐに父から携帯電話に電話がかかってきましたが、つかまったら連れ戻されると思い、必死で走りました。予約しておいたホテルまで着いたら、シャツが血で染まっていました。走っている間に出た鼻血に気づかないままに、無我夢中で走り続けていました。夜が明けると、盗んだお金で航空券の支払いを済ませ、すぐに空港に向かいました。出国すれば父が追ってくることはできないだろうと、観光客のような服装に変装し、大急ぎでチェックインを済ませて出国審査を済ませました。フライトまでの10時間ほどを、空港の中のスターバックスでずっと過ごしました。日本に戻るもののうれしさが60%、日本に帰ってからの不安が40%でした。

日本に帰ってすぐに区役所に行って相談し、児童養護施設に入ることができました。2年ぶりに帰ってきて、家族以外の日本人と話すこと、同世代の人間と話すのが久しぶりで戸惑いました。同世代と話すのが不慣れで、何話せばいいのか、わかりませんでした。



“当たり前のようにアツくなって語り
合い、素直に話すことのできる仲間
がこんなにたくさんいる場所を、
私はビヨンドトゥモローの他に知り
ません”

既に2年遅れていたもので、全日制の中学校に入ることができず、夜間中学に通って受験に備えました。翌年、晴れて高校生になり、やっと普通の高校生になれたことが嬉しくてたまりませんでした。2年間の空白の中で、「ふつう」に憧れていたもので、部活もアルバイトも、全力で頑張りました。放課後、友達とラーメンを食べに行ったりして、ゆっくりした時間が流れている時、私は充実感とよろこびを感じます。

将来は、私は、天文学の研究者になりたいと思っています。そして、いつの日か、お世話になった東南アジアの教育に貢献したいと思っています。生まれた国や家庭によって、子供の未来へのチャンスが制限されることのないよう、力になりたいと思います。

高校生活も落ち着いてきた昨年、ビヨンドトゥモローのことを知りました。最初は、進学のための奨学金に興味があって応募しましたが、実際にサミットに来てみると、そこで出会った仲間は、とても生き生きとしていて、初めて会う人たちのになぜか懐かしく感じました。当たり前のようにアツくなって語り合うことができ、素直に話すことのできる仲間がこんなにたくさんいる場所を、私は他に知りません。その時に出会った大学生が言ってくれた言葉「苦勞の大きさを比べない。」は、今も私の心に響いています。

今年度から、児童養護施設に入所する児童を対象としたプログラム“エンデバー”が始まります。他者を思いやる暖かい心を養う場にしたいです。そして私にはこの1年間の目標があります。それは、フォロワーシップを身に付けることです。最近、大西卓哉宇宙飛行士がISSでの活動を終え、地球に帰還しました。宇宙飛行士にはリーダーシップと同等以上に、フォロワーシップが必要だと聞きます。私たちにも通用する大切な考え方だと感じました。ビヨンドの先輩としてリーダーシップを発揮することの他にも、後輩たちの意見に耳を傾け、その共感力を養うことも私には必要でした。リーダーを補佐し、その重荷を共に背負うことが、いま私に最も足りない事だと気づきました。エンデバーという名に込めた私なりの想いを、これから形にしていきたいと思っています。

私たちは、ビヨンドトゥモローを応援しています。

ビヨンドトゥモローの学生たちが、社会における自らの役割について考え、自分が進む道を定めていく上で、自分の世界観を広げることが大切であるという考えの下に、様々な領域で活躍する方々と対話し、思考を深める機会が多く提供されています。社会課題を考える過程において、机上の学びにとどまることなく、実際に世界に出て、多様な考え方に触れることを応援しています。



「今後の人生において、あなたたちがどんな道を選ぼうと、どんな理不尽なことに遭遇しても、うまくいかないことがあっても、あなたたちがこれから歩む道は、とてもよいのです」

阿川尚之 慶應義塾大学 名誉教授
ビヨンドトゥモロー アドバイザー



「将棋をずっと続けていくときに何が大事かと聞かれたら、たぶんそれは恐れない気持ちだと思います。恐れる気持ちは非常に大事です。それを一歩踏み越えて、恐れなくて、前に踏み込んでいく、未知なものに挑戦していくという姿勢。それは、若い人の特権でもあると思っています」

羽生善治 将棋棋士



「広い視野をもち、世界を視野に活躍できる人材を社会は必要としています。ビヨンドトゥモローの取り組みを通じて、より広い世界にチャレンジするという気概のある若者が羽ばたいていくことを願い、この活動を応援しています」

岩瀬大輔 ライフネット生命保険株式会社
代表取締役社長



「どんな環境に置かれても、それを嘆くのではなく、楽観を持って前向きに進んできた皆さんなら、これから社会に出てどんな困難を経験しても、きっとそれに打ち勝つことができると信じています」

小泉進次郎 衆議院議員



「物事には上手くいくときと、上手くいかないときがあります。自分は何のためにやりたいのかを常に考え、目標をもって、実現できるまで続けていくことが大事だと思います。幸運の女神には後ろ髪がありません」

加藤勝信 衆議院議員／一億総活躍担当大臣



「ビヨンドトゥモローの学生たち一人ひとり、つらい想いの中にも笑顔が常に見えていて、瞳が常に輝いていて、その姿に励まされると共に、それこそが私たちの日本の誇りだと思っています」

竹中平蔵 慶應義塾大学名誉教授
ビヨンドトゥモロー アドバイザー



「進学に際しての財政的な支援もちろん大切ですが、それだけでなく、彼らが、様々な体験を通じて多くの仲間と出会い、自分が一人ではないことを知る中で成長していく過程を応援するビヨンドトゥモローの活動に、大きな意義を感じています」

橋本大二郎 元高知県知事
教育支援グローバル基金理事長



「一人一人の力は小さいかもしれない。でも、一人一人の心からの思いが共鳴することで、自分が思っている以上の力を発揮できる。そして、その力が他の人にも伝わって行く。そんな共鳴の場は、ビヨンドトゥモローならではの場だと思います」

山崎直子 宇宙飛行士
教育支援グローバル基金評議員



支援企業・団体

「資金のご寄附」

多くの方々から、運営資金のご寄附をいただきました。

ビヨンドトゥモローの活動に1000万円以上のご寄附をいただいた企業・団体の皆様

- 株式会社アダストリア
- エアバス
- ジャパン・ソサエティー
- 住友化学株式会社
- 武田薬品工業株式会社
- 日本GE株式会社 GEキャピタル
- バンクオブアメリカ・メリルリンチ
- 米日カウンシル
- 米日財団
- 三菱重工業株式会社
- ロート製薬株式会社
- NOLA Japan Quake Fund

ビヨンドトゥモローの活動に100万円以上のご寄附をいただいた企業・団体の皆様

- 株式会社アルビオン
- ap bank Fund for Japan
- キッコーマン株式会社
- KPMG ジャパン
- 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
- サルサンバ会
- CLSA
- 世界経済フォーラム
- 日本財団
- 質屋エイト会＝埼玉
- 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団
- プロジェクトホープ
- ペンシルバニア大学ウォートンスクール
- ボストン東北緊急支援ファンド

個人サポーター

(ビヨンドトゥモローの活動に100万円以上のご寄附をいただいた個人の方々)

- 江崎 滋恒様
- 大塚 太郎様
- 佐藤 輝英様
- 小林 正忠様
- 橋本 大二郎様
- 船橋 力様
- 本庄 竜介様
- 松古 樹美様
- 松本 大様
- 村瀬 悟・裕子様
- 茂木 友三郎様
- ロバート・アラン・フェルドマン様

「商品・サービスのご寄附」

下記企業の皆様から、運賃・会場・宿泊・印刷製本などのご協力をいただきました。

- 株式会社アゴス・ジャパン
- 有限責任 あずさ監査法人
- 株式会社海外教育コンサルタンツ
- 株式会社ガリバーインターナショナル
- キンコーズ・ジャパン株式会社
- グランド ハイアット 東京
- コニカミノルタ株式会社
- 全日本空輸株式会社
- 株式会社リクルートホールディングス
- 六本木ヒルズクラブ

「人材によるご協力」

下記企業から、社員の方々による数日間の短期ボランティアから、年単位の長期派遣の形でプロジェクト運営に参画いただきました。

- 株式会社アダストリア
- 株式会社アルビオン
- バンクオブアメリカ・メリルリンチ
- ロート製薬株式会社

ご支援のお願い

ビヨンドトゥモローの活動は、活動の趣旨にご賛同くださった多くの企業・個人の皆様からのご支援によって支えられています。困難な体験を糧に、前に進もうとする若者を応援すべく、皆様のご支援をお願い申し上げます。

ご支援についてのお問い合わせ

(電話) 03-5453-8030 (電子メール) info@beyond-tomorrow.org

個人の方からのご支援



ご寄付

銀行振込、クレジットカード払いなどで、ご寄付をいただくことができます。詳しくは、当財団ウェブサイト (<http://beyond-tomorrow.org/>) または、お電話 (03-5453-8030) でお問い合わせください。

※共感助成を通じたご寄付により、寄付金控除の優遇措置を受けることができます。



遺贈によるご寄付

遺言状や遺言信託による遺贈寄附の他、相続によるご寄付、お香典のご寄付をいただくことで、ご自身の財産や大切な方のご遺志を未来を担う若者を応援する活動をご支援いただくことができます。遺言書の作成や、財産のご寄付について相談できる、信託銀行及び弁護士などの専門家のご紹介を希望される方は、当財団までお問い合わせください (お電話: 03-5453-8030)

企業・団体の方からのご支援



資金のご寄付

奨学金や人材育成プログラムへの資金提供によるご協力をお願いしています。

※寄付金控除の優遇措置を受けることができます。



商品やサービスによるご支援

物品やサービスの無料でのご提供や、オフィスなど施設・会場の提供、プロボノでのアドバイザーのご協力など、様々な形でご支援をいただくことができます。



社員ボランティアによるご協力

社員の方々による数時間の短期ボランティアから、中・長期の出向などにより、事業運営にご参画いただくことでご支援いただくことができます。



広報活動へのご協力

企業の広報媒体へのビヨンドトゥモローの掲載や、ポスター設置、店頭POPなどを通して、ビヨンドトゥモローの認知度向上へのご協力をお願いしています。

組織体制

【役員】

■ 理事

橋本大二郎(理事長)	元高知県知事
小林正忠	楽天株式会社 取締役常務執行役員
佐藤輝英	ビーネクストファウンダー & マネージングパートナー
坪内南	一般財団法人教育支援グローバル基金 事務局長
本庄竜介	グリーンコア株式会社 代表取締役
村瀬悟	モルガン・ルイス&バッキアス法律事務所 弁護士

■ 評議員

木山啓子	特定非営利活動法人ジェン(JEN) 共同代表理事
羽生善治	将棋棋士
宮城治男	NPO法人ETIC. 代表理事
山崎直子	宇宙飛行士

■ 監事

江崎滋恒	アンダーソン・毛利・友常法律事務所 弁護士
------	-----------------------

【アドバイザー】

阿川尚之	慶應義塾大学 名誉教授 ・ 同志社大学 教授
竹中平蔵	慶應義塾大学 名誉教授 ・ 東洋大学 教授

【一般財団法人教育支援グローバル基金及びビヨンドトゥモローについて】

一般財団法人教育支援グローバル基金は、東日本大震災を機に設立された財団法人です。「ビヨンドトゥモロー」は、共感力ある次世代のグローバル・シティズン(地球市民)の輩出をめざす人材育成事業として、奨学金支給および人材育成プログラムの運営を行っています。東日本大震災直後から、「逆境は優れたリーダーを創る」を理念に、次世代を担う若者たちが集い、深い思考と真摯な内省を基軸に、他者との対話を試みるというアプローチを通じ、より広い視点、深い共感力をもって社会のことを考えることのできる人材輩出にむけて様々な活動を行ってきました。設立以来、東北地方の高校生・大学生を対象に活動を展開してきましたが、2015年秋より、対象領域を全国に展開しています。

【設立年月日】

2011年6月

【ウェブサイト】

<http://beyond-tomorrow.org/>

【所在地】

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階 ETIC. 内

【電話】

03-5453-8030

【メール】

info@beyond-tomorrow.org

【FAX】

03-6745-9100

一般財団法人 教育支援グローバル基金
<http://beyond-tomorrow.org/>

〒150-0041
東京都渋谷区神南1-5-7
APPLE OHMIビル4階 ETIC. 内
info@beyond-tomorrow.org
電話 03-5453-8030